



一般社団法人 女流画家協会

会報

2024. 2

Vol.15

女流画家協会は一般社団法人になりました

Women Artists Association



第76回女流画家協会展 メタバース会場

一般社団法人女流画家協会 設立に際して

代表理事 中村智恵美

女流画家協会は、2023年11月10日に一般社団法人女流画家協会となりました。

団体としての歴史を遺すという覚悟を確固たるものにするため任意団体から法人格を持った組織へと舵を切りました。変化する時代に合わせながら無理無く柔軟に女流画家協会も変化していく事が出来るようになったのです。当協会には故人の名を冠した賞が数多く存在しますが、それはご遺族からの寄付を原資にしたもので、有難く頂いても任意団体では法的に曖昧になっており、善意に頼りながら引き継がれておりました。これからは法人として女流画家協会が大きく受けとめ大切に運営管理出来るようになりました。

令和2年より当協会が始めた1人1点の女流画家協会作品収蔵も法人化に向けての先駆け事業であり意味を持ったものとなりました。収蔵作品の為の倉庫を借りておりますが、建物を建てれば当協会の美術館（ギャラリー）も可能となります。夢は法人化により、確実にになっていくと信じております。皆様の知恵とご意見を待っております。

ご覧になった事があるでしょうか、HPで開催しているメタバースによる展覧会場には様々な国の人達が集い作品について会話をしていると聞いております。若者へ向けた公募団体の入口をPCから広報しています。

若い世代のAIに問うという形からの作品制作はもう始まっています。異種の思考からの創造参加は避ける事が出来ません。以前からの制作作品と共に受け入れます。

公募団体には出品者減少という波がありますが、これまで通りとはいかない事を想像し恐れてはいけません。ただ変わらないのは、絵を描く女性出品者を探しその才能に寄り添い育み、共に歩むという創立以来の志です。人生50年から100年時代となりましたが、変わらぬご協力とご支援をお願い致します。

最後になりましたが、一般社団法人設立にご協力とご支援をいただきました各方面の皆様に心より感謝申し上げます。



中村智恵美

八木芳子

平川きみ子

柴野純子

杉本弘子

中嶋しい

代表理事	中村智恵美
理事	平川きみ子
理事	柴野純子
理事	杉本弘子
理事	中嶋しい
監事	八木芳子

下記の方々に、一般社団法人女流画家協会設立にご協力いただきました。

はづき司法書士事務所、税理士法人ベイス、弁護士法人 御堂筋法律事務所 東京事務所

第76回展企画講演会

2023年6月9日 講堂

女流画家協会創成期とその周辺 概要

清水康友 先生（美術評論家）

明治時代“家父長制”の下で、女子の地位は極めて低かった。明治9年日本初の美術学校「工部美術学校」が設立、本格的に洋画が教授されて神中糸子、山下りん等の女性が学んだ。同20年国立の東京美術学校（現東京芸術大学）が設立されたが女子の入学は許されず、戦後になって許可され、その第一期生に女流画家協会の岡田菊恵がおり、安井教室の主席であった。女子への洋画教授は、明治33年設立の女子美術学校（現女子美術大学）でなされた。

明治40年政府により「文部省美術展覧会」（文展）が開催される。大正に入ると洋画を描く女性が増え始め、その洋画技術向上のため、津田敏子、小寺菊子为中心となり、大正7年「朱葉会」を創立。会の名称は創立委員の与謝野晶子による。鑑査には岡田三郎助、満谷国四郎、有島生馬、安井曾太郎の4人の男性画家が当たった。岡田は女子の美術教育に熱心で、“女子洋画研究所”を開設し、彼の門から有馬三斗枝、甲斐仁代、森田元子、深沢紅子、三岸節子、桜井浜江、岡田節子、いわさきちひろ等が出る。朱葉会は女性により創設された日本初の洋画団体として注目を浴び、マスコミで様々報じられた。興味本位の記事もあったが、途絶える事なく今日まで継続される。朱葉会からは遠山陽子、岡田節子、藤川栄子、佐伯米子、島あふひ、深沢紅子、飯田弥生等後の女流画家協会の中心となる作家が次々と登場した。

昭和9年に独立美術所属の三岸、桜井、佐川敏子等により「女衚会」が結成された。当時独立では女性は



会員になれず、このジェンダーギャップに対する抗議と思われる。同11年の「七彩会」は、国画会、二科、独立所属の7人展で、各派合同の展覧会を謳った女流画家協会の考えが、ここに既に示されている。

戦時下の昭和18年陸軍の指導下、長谷川春子を委員長に「女流美術家奉公隊」が結成される。同隊は、“戦う少年兵展”を開催するが、息子を兵士にするための母親に向けたプロパガンダ展であった。また、戦地で闘う男性を支える女性の、様々な仕事を描いた、“大東亜戦皇国婦女皆働之図”を50名程の画家で制作した。

終戦後の21年11月「現代女流画家展」の開催中三岸と藤川の発案により、各団体の女性画家の連合展が計画された。昭和22年2月11名の発起人により「女流画家協会」が創立、女性画家の芸術的向上と新人の登竜門を目的とした。奉公隊の委員長として活躍した長谷川は戦争協力者などと言われ、女流とは距離を置きやがて画壇から遠ざかった。以後才能豊かな画家を輩出、安井賞受賞の上條陽子、遠藤彰子、北久美子、芸術院会員の馬越陽子等多数に上る。

大正期女性洋画家の団体を創設した朱葉会、戦後女性の意識覚醒を促し、女性画家の連合により結成した女流画家協会。この2団体が各時代に設立され、美術界に果たした役割は極めて大きいといえる。

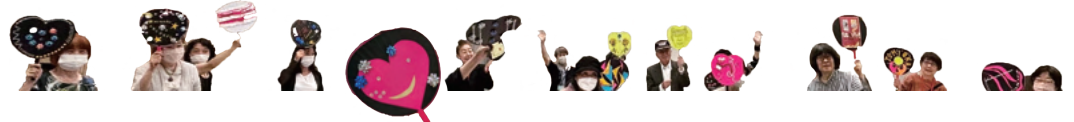


講演ノーカット（1時間48分）動画はYouTubeでご視聴できます
<https://youtu.be/bqpfvZomMvk?si=y1L6PvW5a92uPtUa>



ワークショップ

6月9日 東京都美術館スタジオ



芥川賞受賞の宇佐見りんの「推し、燃ゆ」を読んで、「あ〜・・・」と思った。10年位前に孫の文化祭に彼女が作ったうちわを持たされ、少し恥ずかしかったが、うちわを振って応援した。最近コンサートはもとより、テレビ等でよく見かける様になり、びっくりしている。



そんな中、自分でも作ってみたいくなり、ワークショップで取り上げた。タイトな時間の中でも多数の参加者を得、本当に嬉しかった。

それぞれ用意した材料で両面に個性溢れるデザインや装飾をした。私は推しの一文字を入れたが、さすがに文字を入れた方は他にはいなかった。代わりに雑誌の写真を貼った方がいらした。又、以前使用したワイヤーと銀紙をモダンに扱う方や友人の顔を描いた方、キラキラの材料をあしらって華やかに仕上げた方々。どれも目を見張る素晴らしい出来栄だった。

参加された皆様、ありがとうございました。楽しい会でした。



ワークショップ担当：八木 芳子

第76回展受賞者の声

会員の賞

河井雅江

女流画家協会賞
委員推挙



ありふれた日常の風景の中にある目に見えないもの、そこに住む人々の気配や積み重ねられてきた時間、記憶、懐かしさなどを、何かと表現できたらと思っています。近年、普通の日常の風景が、特別な風景になりかねないと感じることが増えてきました。これからも、あたりまえの日常が描けることを願います。賞の名に恥じない様に、真摯に描いていきたいと思います。



隙間の風景 2023
130F

深井富美子

SOMPO美術館賞
委員推挙



私は幼少より生涯アートに関わっていきたくて考えていました。アートの目的は、人々に感動をもたらしたり、世の中に問題提起をすることにあります。女流画家協会の多様な作品群がその一助を担っていると思えてならず、学生時代より変わらぬ気持ちで出品を継続してきました。委員、会員の皆さまの作品やその背景、心を感じ取りながら、人がよりよく、幸せに生きるための手がかりを、これからも模索していこうと思っています。



胸騒ぎⅡ
130F

田中いく子

上野の森美術館賞



幼いころの、楽しかった絵の時間が思い出されます。今、またその同じ時を過ごすことができ、とても幸せなことだと感謝しております。この賞を励みにして、テーマの私宙を深めてまわりたいと思います。



My Cosmos
130F

酒井佳津子

葦崎大村美術館賞
委員推挙



私は、ここ数年、広島県の厳島神社を描いて参りました。厳島神社は多くの作家さんが描いていらっしゃると思いますが、是非、水彩で描いてみたいと思っておりました。日本の美しい風景はやはり水彩で描くのが相応しいと常々思っていたからです。今、世界は多くの争いがある中で、平和の象徴でもある厳島神社を平和への願いを込めて描いている最中に、偶然にも広島でサミットが行われ、世界中から注目を集めることになりました。この賞に恥じないような絵を描いて参りたいと思います。



planet
130F

一般の賞

阪上芳子

大村文子記念賞



初出品での思いがけない受賞でした。二紀では、水中の樹や水中の犬をテーマに描いてきました。水の動きを水中に落とした墨やインクの drop の流れで表現。ゆっくり落ちていく墨のもやもやとした得体の知れない物。それを見上げる犬の表情で、今の時世の自然災害、紛争、コロナ禍、虐待等の諸々の懸念、危惧感を表したいとおもいました。



drop-不審
130F

青山美穂

女流優秀賞



直前でしたが研究会にも参加させていただき、とても勉強になり、尚且つ同じ出品者の方々と親睦も図ることができました。私が賞を頂けたのも先生方のご指導や仲間の励ましがあったからだと思います。作品制作に於いてまだまだ不備なところがございますが日々精進して参ります。



景 2023-May-1
130F

永井画廊の個展を終えて

馬越陽子

遠い記憶を辿ると、29年前安田火災東郷青児美術館大賞受賞記念展の会場に永井画廊の三喜勇社長と龍之介様が揃って来られ翌年の銀座での個展が実現して以来、南青山での個展など長く続いている御縁を改めて思う。

丁度、女流画家協会展の開催と重なり多くの出品の方々の来廊を感謝している。私が会場にいない時も龍之介様が丁寧に対応して下さり有難く思う。また、個展前にYouTubeの取材で永井様と長時間の対談の発信は初めての経験で未知の方々と広くつながった事は驚きでした。印象的な来客の中にはプラハから帰国直後の成田から直行の方、パリから直行など久しぶりの対面



となった。永井画廊の奥の小部屋には梅原龍三郎の50号の絶筆が掲げられていて私の作品がお隣にかけられ、行く度に見る事ができたのは貴重な体験だった。その絶筆は抽象表現をまじえ雄大な気を孕み空間は外界をもとりこんでいて教えられる事多く私の仕事の次につながる事を実感しています。



個展紹介

平川きみ子 作品展

6月20日～8月20日

森のホール21 アートスペース



松戸の作家個展「文化の香る街づくり」の一環として、松戸市在住・在勤美術作家の活動を紹介し、松戸市民の文化芸術活動の振興を支援する企画に参加させていただきました。女流画家協会展が6月13日に終わり個展準備。最近の作品から200号～変形60号を展示。今は樹木の力強さと魅力有る表現を心がけ描いていますが、これからはじっくり眺め、心を落ち付けて、作品と向き合って行きたいと思います。

「平川きみ子作品展」を拝見して

平木久代

松戸駅で堀岡正子さんと待合わせ、迎えに来て頂いた平川きみ子さんの車で個展会場へ。夏空の下、緑の街路樹も美しく暫く走ると広大な森に包まれた「森のホール21」へ到着。当日はホールの催事も無く静けさの中、1階アート・スペースは吹き抜けの広い空間に200号が展示されて、ゆっくりと拝見する事が出来ました。女流画家協会展で受賞された記念の2作品と他出品作品も展示され、植物の凝縮された密なる表現と余白で構成されている平川きみ子さんの世界を満喫する事が出来ました。

すずき ふみえ展



～風を感じて～

5月29日～6月4日

ギャラリーあづま

2回目の個展。女流画家協会展と日程が隣接しておりましたが、忙しくとも充実した時を得る事ができました。混沌としたこの世から生まれる愛おしき生物たち。相互に発し合い繰り広げられるエネルギーの世界を視覚的に捉えた絵画空間を目指しています。個展では多くの方の感想、ご意見エールを頂きました。あらためて共にエネルギーを享受し合える作品を描いていこうと奮起しているところです。

～「痕跡」2023年の個展から～

7月10日～15日

K's Gallery

銀座K'sギャラリーで久しぶりに個展を開催しました。2022年から23年の作品です。紙・キャンバス・板・アクリル板等使用。油絵具・墨・顔料・染料他使っています。タイトルの「痕跡」は、旅で出逢った、南米・中米のイメージから付けました。今回は、ボリビアのティワナコ遺跡等からペルーに散在するインカの遺跡からのイメージです。高さ3,000米余の乾いた赤褐色の大地に、土の色と同化し、赤茶けて残る建造物の痕跡、グレイに近い石の彫像、神々の姿が彫られた門等、吹き抜ける風音と重ねて、想像を越えた、時の流れを感じさせられました。ところで、展覧会是一个の句読点かな、等と私は考えています。

高橋 和 展



酒井 佳津子 展



7月10日～15日

ギャラリー・シエーヌ

私は女流画家協会展、水彩連盟展、独立展と三つの画壇に作品を発表しております。三つの団体展発表の作品を一同に展示してテーマの流れを自分なりに確認する為に隔年毎に個展を開催して居ります。個展の会場は道路に面したガラス張りで、道行く人々が会場に気軽に立ち寄れる環境にあります。画壇関係の方々は何論のこと、一般の人々の忌憚のないご意見を聞ける大変良い機会と思い、これからも続けていきたいと思って居ります。

8月1日～6日

京都ギャラリーヒルゲート

全国的に猛暑の中の京都での個展。6月後半の東京麻布のギャラリー華での個展に展示した44点のうちの15点に9点加えて24点は、ギャラリーの広さにたいしては少々多めでした。岐阜県大垣市生まれの私にとって京都は思い入れのある街ですが、2010年から活動した「青木繁 [海の幸] オマージュ展」でご縁ができたギャラリーヒルゲートで個展の開催が今年ようやくかないました。近年、金箔の使用、琳派の文様を意識した制作に傾倒してきているので、古都京都での個展開催は作家須藤美保にとって意義深いものになったと思っています。今年の2月に開催した女流画家協会京都展を見て、今年の女流展に初出品してくれた人や関西在住の皆さんがたくさん来廊くださって嬉しかったです。会期中の滞在は京都旅行の気分でしたが、御池通のアブラ蟬の鳴き声に京都の夏を堪能しました。

須藤 美保 展



研究会のお知らせ

2023年の女流画家協会研究会の11月までの参加人数はのべ310人、新規の参加者は18人です。研究会は8月と12月を除き、毎月第3金曜日（予約の都合で変更あり）に13:00～16:00までおこなっています。持ち物は、スケッチブック等・筆記用具・水彩セットなど。イーゼルはあります。

始めに講師の委員のアーティストトークをうかがった後デッサンを始めます。固定ポーズを2回、休憩をはさんでムービング（動きながらのモデルをデッサンする）、最後にポーズを2回描きます。

デッサンの間に講師が、本展出品作品のエスキースや写真、その他の作品を講評。具体的で的確な指導をそれぞれの参加者に合わせて丁寧にして



くださいますので、とても有意義で好評です。

女流画家協会展に出品の方やそうでない方もぜひご参加ください。

研究部担当：黒沢裕子

Web

HP: joryugakakyokai.com

出品者の皆さま、個展DMは事務所へお送りください
HPやブログに掲載いたします

76回展 メタバース会場（Spatial）

スマホ（Spatialアプリが必要）やパソコンからでも入室できます。

会場は受賞作品・委員・会員・一般別にお名前五十音順計7会場に分かれて展示しています。協会公式サイトまたはQRコードでご自身の展示会場を確認してください。



76回展全展示作品（1点/1人）をメタバース会場で展示しています。



会場内の様子は
YouTubeでもご覧頂けます



YouTube



一人でゆっくり、
または世界中の方々と、
etc...楽しみ方はいろいろ♪



イラスト by AI

BGMは生成AIが、女流画家協会ロゴ  の色と形のイメージから作曲しています。

Web担当：中嶋しい

メタバース内でアーティストトークなどのイベントをされたい出品者の方はブログで告知いたしますのでお知らせください。

jimusho@joryugakakyokai.com

協会公式サイト



協会公式ブログ



YouTube女流画家協会チャンネル

- 講演
- メタバース展
- 74回展・つくば展



2024 第77回 女流画家協会展

東京都美術館

会期 6.6(木) ▶ 13(木)

搬入日 5.25(土)



編集後記

不安定な世界情勢、早く平和な世の中になって欲しいと願っています。

H

女流画家協会 会報 Vol.15 2024. 2

発行日：2024年2月1日

発行：一般社団法人 女流画家協会

編集委員：堀岡正子、平木久代

一般社団法人 女流画家協会 事務所

〒142-0043 品川区二葉4-14-10

TEL 03-3784-9577